

## 0.1 H31 数学 A

[1] (1)  $\forall \varepsilon > 0, \exists N \in \mathbb{N}, \forall n \geq N, \forall x \in \mathbb{R}, |f_n(x) - f(x)| < \varepsilon$  である。また  $f_N$  は連続であるから、 $\forall \varepsilon > 0, \exists \delta > 0, \forall x \in \mathbb{R}, |x - x_0| < \delta \Rightarrow |f_N(x) - f_N(x_0)| < \varepsilon$  である。以上より、 $\forall x_* \in \mathbb{R}, \forall \varepsilon > 0, \exists \delta > 0, \exists N \in \mathbb{N}, \forall x \in \mathbb{R}, |x - x_*| < \delta \Rightarrow |f(x) - f(x_*)| \leq |f(x) - f_N(x)| + |f_N(x) - f_N(x_*)| + |f_N(x_*) - f(x_*)| < 3\varepsilon$  であるから、 $f$  は連続である。

(2)  $a \geq x > 0$  のとき、平均値の定理から  $u(\frac{x}{n}) - u(0) = \frac{x}{n}u'(\alpha_n), u(-\frac{x}{n}) - u(0) = -\frac{x}{n}u'(\beta_n)$  となる  $-\frac{x}{n} < \beta_n < 0 < \alpha_n < \frac{x}{n}$  が存在する。よって  $u_n(x) = \frac{x}{n}(u'(\alpha_n) - u'(\beta_n))$  である。平均値の定理から  $u'(\alpha_n) - u'(\beta_n) = u''(\gamma_n)(\alpha_n - \beta_n)$  となる  $-\frac{x}{n} < \beta_n < \gamma_n < \alpha_n < \frac{x}{n}$  が存在する。よって  $u_n(x) = \frac{x}{n}(u''(\gamma_n)(\alpha_n - \beta_n))$  である。 $\alpha_n - \beta_n \leq \frac{2x}{n}$  であり、また  $u''$  は  $[-a, a]$  上連続であるから、有界である。よって  $\forall n, u''(\gamma_n) < M$  とできる  $M > 0$  が存在する。以上より  $|u_n(x)| \leq \frac{2x^2}{n}|u''(\gamma_n)| \leq \frac{2a^2M}{n^2}$  である。よって  $\sum |f_n(x)| \leq 2a^2M \sum \frac{1}{n^2} < \infty$  である。これは  $-a \leq x < 0$  でも成立し、また  $x = 0$  なら  $u_n(x) = 0$  であるから  $x = 0$  でも成立する。ワイエルシュトラスの M 判定法より、 $u_n(x)$  は絶対一様収束する。また (1) より収束先の関数は連続である。

[2] (1)  $N^2 \neq O$  より  $N^2u \neq 0$  なる  $u \in \mathbb{C}^3$  が存在する。この  $u$  について  $c_1u + c_2Nu + c_3N^2u = 0$  とすると、 $N^2$  を左からかければ、 $c_1N^2u = 0$  より  $c_1 = 0$  である。よって  $N$  をかければ  $c_2N^2u = 0$  より  $c_2 = 0$  である。よって  $c_3 = 0$  である。よって  $u, Nu, N^2u$  は一次独立である。

(2)(1) の  $P = \begin{pmatrix} N^2u & Nu & u \end{pmatrix}$  とすれば  $P$  は正則で  $J := P^{-1}NP = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$  である。

$g: V \rightarrow V$  を  $g(X) = JX - XJ$  とする。 $f(PXP^{-1}) = NXP^{-1} - PXP^{-1}N = Pg(X)P^{-1}$  である。 $f^2(PXP^{-1}) = f(Pg(X)P^{-1}) = Pg(g(X))P^{-1} = Pg^2(X)P^{-1}$  である。繰り返して  $f^k(PXP^{-1}) = Pg^k(X)P^{-1}$  である。 $P$  は正則であるから、 $f^k = 0 \Leftrightarrow g^k = 0$  である。また  $g^k = 0$  ならば  $g^{k+1} = 0$  である。

$g^2(X) = J(JX - XJ) - (JX - XJ)J = J^2X - 2JXJ + XJ^2, g^3(X) = J^2(JX - XJ) - 2J(JX - XJ)J + (JX - XJ)J^2 = -3J(JX - XJ)J, g^4(X) = -3J(J^2 - 2JXJ + XJ^2)J = 6J^2XJ^2, g^5(X) = 6J^2(JX - XJ)J^2 = 0$  である。よって  $g^5 = 0$  である。

$X = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 \end{pmatrix}$  とすると  $J^2XJ^2 = \begin{pmatrix} 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \neq O$  であるから、 $g^4 \neq 0$  である。よって  $g^k = 0$  となる最小の  $k$  は 5 である。

[3] (1)  $d: A \times A \rightarrow \mathbb{R}$  が距離関数であるとは次の条件を満たすことである。

$$(i) \forall x, y \in A, d(x, y) = 0 \Leftrightarrow x = y$$

$$(ii) \forall x, y \in A, d(x, y) = d(y, x)$$

$$(iii) \forall x, y, z \in A, d(x, z) \leq d(x, y) + d(y, z)$$

(2) 任意の異なる二点  $x, y \in A$  について  $d(x, y) > 0$  である。 $\varepsilon = d(x, y)/2$  とすれば、 $x \in B(x, \varepsilon) := \{a \in A \mid d(x, a) < \varepsilon\}, y \in B(y, \varepsilon), B(x, \varepsilon) \cap B(y, \varepsilon) = \emptyset$  である。よって  $A$  はハウスドルフ空間である。

(3)  $x \in A$  を一つ固定する。 $S = \{B(x, n) \mid n \in \mathbb{N}\}$  は  $A$  の開被覆である。コンパクトであるから、有限部分集合  $\{B(x, n_i) \mid i = 1, \dots, m\}$  が存在して、 $A \subset \bigcup_{i=1}^m B(x, n_i)$  となる。 $n = \max_{i=1, \dots, m} n_i$  とすれば  $A \subset B(x, n)$  である。したがって任意の二点  $y, z \in A$  について  $d(y, z) \leq d(y, x) + d(x, z) < 2n$  である。

(4)  $x \in U_{x,y}, y \in V_{x,y}, U_{x,y} \cap V_{x,y} = \emptyset$  となる開集合対  $(U_{x,y}, V_{x,y})$  を各  $(x, y) \in C_1 \times C_2$  ごとに定める。

$S_y = \{U_{x,y} \mid x \in C_1\}$  は  $C_1$  の開被覆であるから、有限部分集合  $C_{1,y} \subset C_1$  が存在して、 $S'_y =$

$\{U_{x,y} \mid x \in C_{1,y}\}$  が  $C_1$  の開被覆となる．また  $V_y = \bigcap_{x \in C_{1,y}} V_{x,y}$  とする．有限個の共通部分であるから  $V_y$  は開集合である．

$T = \{V_y \mid y \in C_2\}$  は  $C_2$  の開被覆であるから，有限部分集合  $C'_2 \subset C_2$  が存在して， $T' = \{V_y \mid y \in C'_2\}$  が  $C_2$  の開被覆となる． $U = \bigcap_{y \in C'_2} (\bigcup_{S'_y} U_{x,y})$ ,  $V = \bigcup_{y \in C'_2} V_y$  とする． $C'_2$  は有限集合であるから， $U, V$  は開集合である．

$S'_y$  は  $C_1$  の開被覆であるから， $C_1 \subset U$  であり，また  $C_2 \subset V$  も明らか． $z \in U \cap V$  とすると，ある  $y' \in C'_2$  について  $z \in V_{y'} \subset V_{x,y'}$  ( $\forall x \in C_{1,y'}$ ) である．また  $z \in U$  より  $\forall y \in C'_2$  について  $z \in \bigcup_{S'_y} U_{x,y}$  である．とくに  $z \in \bigcup_{S'_{y'}} U_{x,y'}$  である．したがってある  $x' \in C_{1,y'}$  について  $z \in U_{x',y'}$  である．よって  $z \in U_{x',y'} \cap V_{x',y'}$  となり矛盾．よって  $U \cap V = \emptyset$  である．

[4] (1)  $zf(z)$  は  $z = 0$  で正則であるから， $z = 0$  は  $f$  の一位の極である．よって  $\lim_{z \rightarrow 0} zf(z) = \frac{1}{a^2}$  より主要部は  $\frac{1}{a^2 z}$  である．

(2)  $f(z) - \frac{1}{a^2 z}$  は原点近傍で有界である．よって  $\int_{C_r} f(z) - \frac{1}{a^2 z} dz \rightarrow 0$  ( $r \rightarrow 0$ ) である．よって  $\lim_{r \rightarrow 0} \int_{C_r} f(z) dz = \lim_{r \rightarrow 0} \int_{C_r} \frac{1}{a^2 z} dz = \lim_{r \rightarrow 0} \int_0^\pi \frac{1}{a^2 r e^{i\theta}} r i e^{i\theta} d\theta = \frac{i\pi}{a^2}$  である．

$$\left| \int_{C_r} f(z) dz \right| = \left| \int_0^\pi \frac{\exp(i e^{i\theta})}{r e^{i\theta} (r^2 e^{2i\theta} + a^2)} r i e^{i\theta} d\theta \right| \leq \int_0^\pi \left| \frac{\exp(-\sin \theta)}{(r^2 e^{2i\theta} + a^2)} \right| d\theta \leq \int_0^\pi \frac{1}{|r^2 - a^2|} d\theta = \frac{\pi}{|r^2 - a^2|} \rightarrow 0 \quad (r \rightarrow \infty)$$

(3)  $D_{r,R}$  の内部に  $f$  は  $z = ia$  を特異点にもち， $z = ia$  を除いて  $f$  は  $D_{r,R}$  で正則であるから留数定理より  $\int_{\partial D_{r,R}} f(z) dz = 2\pi i \operatorname{Res}(f, ia)$  である． $\lim_{z \rightarrow ia} (z - ia) f(z) = \frac{e^{ia}}{ia(ia+ia)} = -\frac{1}{2a^2 e^a}$  より  $\int_{\partial D_{r,R}} f(z) dz = -\frac{\pi i e^{-a}}{a^2}$  である．

(4)  $\partial D_{r,R}$  と実軸の正の部分との共通部分を  $\alpha_1$ ，負の部分との共通部分を  $\alpha_2$  とする．向きは  $\partial D_{r,R}$  と同じ向きを入れる． $\int_{\alpha_1} f(z) dz = \int_r^R \frac{e^{ix}}{x(x^2+a^2)} dx = \int_r^R \frac{\cos x + i \sin x}{x(x^2+a^2)} dx$  である．また  $\int_{\alpha_2} f(z) dz = \int_{-R}^{-r} \frac{e^{ix}}{x(x^2+a^2)} dx = \int_R^r \frac{e^{-ix}}{-x(x^2+a^2)} (-1) dx = \int_r^R \frac{-\cos x + i \sin x}{x(x^2+a^2)} dx$  である．よって

$$\begin{aligned} -\frac{\pi i e^{-a}}{a^2} &= \lim_{r \rightarrow 0, R \rightarrow \infty} \int_{\partial D_{r,R}} f(z) dz = \lim_{r \rightarrow 0, R \rightarrow \infty} \left( \int_{-C_r} f(z) dz + \int_{\alpha_1} f(z) dz + \int_{\alpha_2} f(z) dz \right) \\ &= -\frac{i\pi}{a^2} + \lim_{r \rightarrow 0, R \rightarrow \infty} \left( \int_r^R \frac{2i \sin x}{x(x^2+a^2)} dx \right) = -\frac{i\pi}{a^2} + 2i \int_0^\infty \frac{\sin x}{x(x^2+a^2)} dx \\ \int_0^\infty \frac{\sin x}{x(x^2+a^2)} dx &= \frac{\pi}{2a^2} (1 - e^{-a}) \end{aligned}$$